

第 2 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 平成 26 年 9 月 30 日 14:30～16:30

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 福島第一原子力発電所の状況について

東京電力より、福島第一原子力発電所の状況に関して以下の内容を中心に報告があった。

- ①汚染水対策
- ②4号機からの燃料取り出し
- ③1、2、3号機のオペフロの状況や1号機建屋のカバー解体手順
- ④今後の燃料デブリ取り出しに向けた状況。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 東京オリンピックやリニア新幹線建設が、作業員の中長期的な確保に影響を与えかねない。中長期的な作業員の確保に向けてきめ細かな取り組みを行っていくことが重要。
- 作業員の被ばくを低減するためにも、工事を担う業者がそれぞれ相当数の重機を投入することになるが、汚染されてサイトから出せなくなるのが現状なので、現場で柔軟に融通するなど合理的に活用する視点があるとよい。
- 個別の作業に応じて作業員がどれくらい被ばくをするかについてデータを出すことが、今後の作業員の被ばくを低減させていく上で重要。
- 例えば、ロボットや遠隔操作には多くの失敗事例があるはず。失敗は成功のためには必要な話なので、これまでの失敗事例に関するデータを出していくことが、今後の失敗を減らし、成功に導くために重要。

2. 第 1 回廃炉等技術委員会での委員からの指摘事項への対応について

NDF 事務局より、第 1 回廃炉等技術委員会では出された委員からの指摘事項について、とりまとめの上、対応について説明があった。

3. 「戦略プラン（仮称）」の策定について

NDF 事務局より、「戦略プラン（仮称）」に関して、基本的な考え方、位置付け、検討スコープなどについて以下の通り説明があった。

- 今後の廃炉を適確かつ着実に実施する観点から、中長期的視点から十分な対応がなされていない分野に対し、専門的・持続的な技術検討を行い、政府の中長期ロードマップの改訂に反映することを目的に、「戦略プラン（仮称）」をとりまとめている。
- 当面の課題として、①燃料デブリ取り出し、②廃棄物対策、及び、③建屋止水の3分野についての中

長期的な廃炉戦略をとりまとめる。

- この「戦略プラン（仮称）」は、先例のない事故炉の廃炉に向けた取り組みを進めていく上で、工法・プロセスの選択・優先順位の判断の考え方とアクション・プランを提示するもの。
- 現場における作業だけでなく、必要な研究開発計画、許認可を含むエンジニアリング・スケジュール等も含めたトータルのプランとする。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 後ろからロードマップを書いていくくらいのつもりで、中長期的な視点から現場を見て、全体像を捉えることが重要。
- 現場で実行できるものでないとうまくいかないのでは、東京電力とのコミュニケーションを継続的、合理的にとっていくことが重要。
- 必要条件は示されていると思うが、これをやれば安全に廃炉が進められるという十分条件も必要。
- トレードオフが必要になる場面が出てくると考えられるので、理想論を書くだけでなく、バランスをとりながら最適な方向に向けて進めていくべき。
- 実現出来ない空約束になってしまっは意味がないので、制約条件の中で出来る限りのことをやることで、最善を尽くすことが重要。
- 戦略というのは、見通しや希望を含めてこうありたいという姿を具体的な形で表現するもので、戦術はそれをどのように実現させていくか細かく示したものだ。今は、戦略の意義を説明し理解を得る努力をするべき。
- 限りなくゼロに近いリスクを目指すとは答えがなくなる。受容可能なリスクを目指すべき。

4. 専門委員会の設置について

NDF事務局より、専門委員会の設置について以下の通り報告があった。

- 中長期的な廃炉戦略の検討を行うにあたり、NDF執行部が有識者や関係機関からの代表者の参加を得て課題を掘り下げ、専門的な検討を進める場として、専門委員会を設置する。

以 上